５月チャプレン便り

「後ろ姿を」

“子は親の後ろ姿を見て育つ”と言われます。親の後ろ姿とは、要するに親のふだんの生活態度のことです。おかあさんがいくら一生けんめい子供に向かって言い聞かせたり、教えこもうとしたりしても、なかなか子供の心の底までは届いていないものです。何度も何度も、俗に“耳にタコができる”と言いますが、言えば言うほど、言葉は耳のところで止められて、心に響かないものです。

たとえば、テレビばかりを見ている子供に、「本を読みなさい」といくら言っても、子供はなかなか本を読もうとしません。ところが、何も言わなくても、おかあさん自身が夢中で読書している姿を見ると、子供は、「おかあさん、何読んでるの？」と寄ってきて、自然と読書に興味を持ち始めるものです。

何も言わなくても、おとうさんとおかあさんが、精いっぱい自分の人生を生きている、その姿を子供に見せてあげれば、家庭教育の役割の半分はすでに果たされていると言っても過言ではないでしょう。

ことわざの終わりの“育つ”という点にも注目してください。子供を意識的に“育てる”のではなく、子供が自然に自分の力で“育つ”、その手本を親が日常生活でしめす、ということなのです。

新約聖書のルカによる福音書１１章１節には、興味深い出来事が記されてあります。

弟子たちは、イエス様と共同生活をしていましたが、そのイエス様が、病人を癒したり、悪霊を追い出したり、嵐を静めたり、どうしてそのような力あるわざができるのだろうか、その力はどこから来ているのだろうかと、不思議に思っていました。その秘訣を知りたいと思っていたのです。ある夜、夜が明けるよほど前、イエス様が、こっそり起きて、外に出掛けたことを知った弟子たちは、こっそりとイエス様の後をつけていきました。そのある場所で、イエス様は、ひざを折り、必死に祈っていました。その祈っているイエス様の後ろ姿に、弟子たちは、イエス様の力の源が、祈りだということを知り、大きな感動と衝撃をうけたのです。そして、祈りを終えたイエス様の前にぬかずいて、「わたしたちにも祈ることを教えてください」と嘆願いたしました。

私たちも自らの後ろ姿を通して、人生で大切なことを子に伝えたいものです。

石川三育保育園チャプレン　北　睦　夫